The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	＜紹介＞藤田真一編注『蕪村文集』
Author(s)	西出, 春菜
Citation	語文. 2018, 110, p. 44-44
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/73322
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

藤田真一編注『蕪村文集』

西　出　春　菜

本書は与謝蕪村の〝俳文〟を集め、注釈および解説を付したものである。以下に目次を示し、章ごとに概要を述べたい。

凡例／蕪村翁文集／乾／序／凡例／坤／文集拾遺／第一節蕪村短編類／第二節　蕪村序跋類／第三節　蕪村詞書類／新花摘／発句編／文章編／蕪村句評／妖怪絵巻／（付録）几董作夜半翁終焉記／解説／初句索引

「蕪村翁文集」は文化十三年刊、其独亭忍雪・酔庵其成編の版本『蕪村翁文集』によったもの。画賛を中心とした多くの蕪村の文章が収められており、特に『春泥句集』の序文は重要な俳論である「離俗論」が説かれている。

「文集拾遺」では「蕪村翁文集」に収められていない蕪村の文章が集められている。三節にわけられ、第一説は「俳諧活動をはじめ、生活や旅行など種々の機会に書かれた文章や画賛類などの作品を収めた」もの。第二節は「さまざまな書物に寄せた序文・跋文や識語を収めた」もの。第三節は「発句等の詞書（前書）を収めた」ものとなっている。

「新花摘」は逸翁美術館蔵『新花摘』（写本）を底本として、版本『新花摘』の挿絵が付されている。発句編と文章編に分かれ、文章編には俳論だけでなく、「結城の狸騒動」のような怪異譚も多く収められている。また本書には弟子の月渓によるとされる挿絵もつけられている。

「蕪村句評」では蕪村の句評が収められている。発句作者ではない宗匠としての蕪村の姿を見ることができる。

「妖怪絵巻」では『蕪村妖怪絵巻』（複製）の影印と文が収められている。その名の通り妖怪の絵巻で、影印が載せられているため、文だけでなく蕪村の愉快な妖怪の画を楽しむことができる。

「夜半翁終焉記」は蕪村追悼集『から檜葉』に所収の、几董による蕪村追悼文。蕪村の生涯の概観、病床に就いてから息を引き取るまでの様子が書かれており、蕪村の人となりを知ることができる。

以上、収められている作品は蕪村を知る上で重要なものばかりである。藤田氏は「解説」の中で「俳諧とはもとより、人びとの一座性や連衆意識をそなえた文芸であるが、自筆を以てそのやり取りまで、書いてみせ、そこへ絵を添えることによって、さらなる人間的芳醇さを打ち出すことにつながる」と述べられており、画賛や句評など、相手を想定して書かれた文章から、書き手の交流の姿勢、交流の輪を読み取ることができるとされている。

語注が丁寧に付けられている他、各作品の冒頭に作品解説が付されており、初学者にも理解しやすいものとなっている。本書によって新たな蕪村像を発見できることであろう。

（岩波文庫、二〇一六年一二月、一一三〇円＋税）

（にしで・はるな　本学大学院博士前期課程）